

平成 28 年度

日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会における  
「男女共同参画」に関するアンケート調査

平成 29 年 1 月実施

平成 29 年 6 月発行

日本耳鼻咽喉科学会総務部男女共同参画委員会編

日本耳鼻咽喉科学会総務部男女共同参画委員会

担当理事 高橋 姿

委員長 小林 一女

委員 木村百合香

濱田 昌史

森田 由香

# 目 次

I. 平成 28 年度日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会における「男女共同参画」に関するアンケート調査結果の解説	4
II. 調査結果	
1. 日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会の医師会員数，女性医師比率の推移	7
2. 日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会における役員数と女性比率	8
3. 役員選出に関する、クォータ制（割当制）等の女性医師登用へのポジティブアクションの有無	9
4. 学会総会・学術集会における女性登用の推移～指定演者	10
5. 学会総会・学術集会における女性登用の推移～座長	11
6. 学会総会・学術集会における託児所設置の有無	12
7. 学会内における女性医師支援や男女共同参画推進に関する内部組織やアクションプランの有無	13
8. 自由意見	14
III. 集計結果の概要	15
IV. アンケート用紙	17

# I. 平成 28 年度日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会における「男女共同参画」に関するアンケート調査結果の解説

男女共同参画委員会  
担当理事 高橋 姿  
委員長 小林 一女

平成 27 年 8 月、国会で女性活躍推進法が成立し、国や地方公共団体、民間事業主には女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表が事業主に義務付けられた。さらに内閣府が定めた第 4 次男女共同参画基本計画では、「女性医師の仕事と生活の両立や、離職・休職した女性医師の復職を通じた、医療機関、学術団体、職能団体等の関係団体における政策・方針決定過程への女性の参画拡大」が政策・方針決定過程への女性の参画拡大への具体的な取り組みの一つとして掲げられている。

日本耳鼻咽喉科学会は、これに先立ち平成 26 年度より総務部に「男女共同参画委員会」を設置し、男女共同参画へ向けての積極的な取り組みを行っている。本邦における耳鼻咽喉科入局者数は、平成 16 年の臨床研修義務化以降、導入前の 80%程度で推移しているが、新入医局員に占める女性医師数は 1.2 倍に増加しており、全体数が減少する一方で、女性医師の占める割合は今後 3 人に 1 人程度まで増加することが予測される。男女共同参画は、耳鼻咽喉科医療水準の維持のために耳鼻咽喉科医全体として取り組むべき課題であるといえる。

そこで、男女共同参画委員会では、平成 26 年度に引き続き日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会へのアンケート調査を行い、これらにおける女性医師数と、指導的地位への登用の割合、基盤整備の状況を調査した。概略は以下の通りである。

## 1. 対象・調査方法

日本耳鼻咽喉科学会ならびに関連する学会の事務局へ、平成 29 年 1 月に郵送にてアンケート用紙を送付し、回答を得た。回答率は 100%であった。

## 2. 調査結果の分析

### ① 日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会における会員の女性比率

日本耳鼻咽喉科学会の女性比率は、耳鼻咽喉科医の女性比率を直接反映するものである。これと比較して、頭頸部外科系の学会では10%前半と低い一方で、日本耳科学会・日本聴覚医学会・日本めまい平衡医学会や日本小児耳鼻咽喉科学会・耳鼻咽喉科臨床学会は20%を超えており、日耳鼻と同等あるいはそれ以上であり、耳科学領域、小児耳鼻咽喉科領域や耳鼻咽喉科臨床領域への女性医師の参画が進んでいる。

#### ② 日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会における役員数と女性比率

今回調査で得られた女性役員比率は平均4.9%であり、平成26年度調査の4.1%に比し微増であった。女性医師の指導的地位への参画は未だ十分とは言えない状況である。

#### ③ 役員選出における女性登用へのポジティブアクション

17学会中、ポジティブアクションあり、あるいは導入予定・検討中との回答があったのは6学会であり、平成26年度調査の7学会に比し後退する結果となった。ゴール・アンド・タイムテーブル方式やクオータ制といった男女共同参画への具体的方策の有用性に関する周知が求められる。

#### ④ 学会総会・学術集会の指定演者・座長への女性登用比率

指定演者の女性会員比率に対する女性登用比率は9.5%、座長の女性会員比率に対する女性登用比率は5.3%であり、平成26年度調査の指定演者10.0%、座長6.5%に比し、減少傾向であった。指定演者に関しては、前回調査では指定演者に関する調査は医師に限定していなかったことから言語聴覚士など他職種の女性の登用が反映されており、今回調査との単純比較はできないが、女性医師の登用は未だ十分でない状況である。

#### ⑤ 学会総会・学術集会における託児所設置

育児中の女性医師が研修目的で学会参加をするのにあたり、基盤整備として有用なのが託児所である。前回調査では託児所あり、あるいは導入検討中と回答した学会は47.0%と過半数に満たなかったが、今回調査では託児所ありが64.7%、導入検討中を含めれば76.4%と大幅に拡充がなされており、環境整備への理解が進んでいた。新専門医制度の導入により学会参加の必要性が高まっており、導入予定のない学会に対しても引き続き託児所設置の検討を促す。

#### ⑥ 学会内における女性医師支援や男女共同参画推進に関するアクションプランの有無

前回調査時は、ありと回答した学会が17.6%、今回調査では35.3%と増加傾向であった。男女共同参画委員会の設置や女性医師支援セミナーの開催など、基盤整備は進みつつある。

おわりに今回のアンケート調査にご協力をいただいた日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会の会長・理事長、事務局の各位に深く感謝申し上げます。この調査は、今後耳鼻咽喉科医の全体数の減少と女性医師の占める割合の増加が予測されるなか、男女共同参画を推進する上での重要な資料です。本データの分析を、我々の専門領域の未来をより良い方向に導くことにお役立ていただければ幸いです。次回の調査におきましても、今回同様のご協力をお願い申し上げますとともに、よりよい男女共同参画の実現を目指して、本委員会への具体的な提言をお待ちしております。

## II. 調査結果

### 1. 日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会の医師会員数，女性医師比率の推移

学会名	平成 26 年度			平成 28 年度		
	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)
日本耳鼻咽喉科学会	10743	2387	22.2	10808	2467	22.8
日本聴覚医学会	1694	355	21.0	1622	361	22.3
日本めまい平衡医学会	1470	90	6.1	1690	343	20.3
日本耳科学会	2902	577	19.9	2840	582	20.5
日本鼻科学会	1965	333	16.9	1939	348	17.9
日本気管食道科学会	3132	347	11.1	3009	365	12.1
日本頭頸部癌学会* 2	3207	371	11.6	2080	218	10.5
日本音声言語医学会	522	106	20.3	532	99	18.6
日本顔面神経学会	466	55	11.8	494	56	11.3
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会	623	119	19.1	604	108	17.9
日本小児耳鼻咽喉科学会	1135	305	26.9	1138	299	26.3
耳鼻咽喉科臨床学会	3534	800	22.6	4377	838	19.1
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	732	94	12.8	759	113	14.9
日本口腔・咽頭科学会	1357	229	16.9	1350	237	17.6
日本喉頭科学会	955	103	10.8	974	103	10.6
日本頭頸部外科学会	1801	227	12.6	1825	236	12.9
日本嚥下医学会	956	148	15.5	865	127	14.7
合計	37194	6646	17.9	36906	6900	17.1

\* 1 女性医師比率が20%を越える学会を赤字で示した。

\* 2 平成26年度の医師総数、女性医師数には歯科医師を含むが、平成28年度の数値には歯科医師数を含まない。

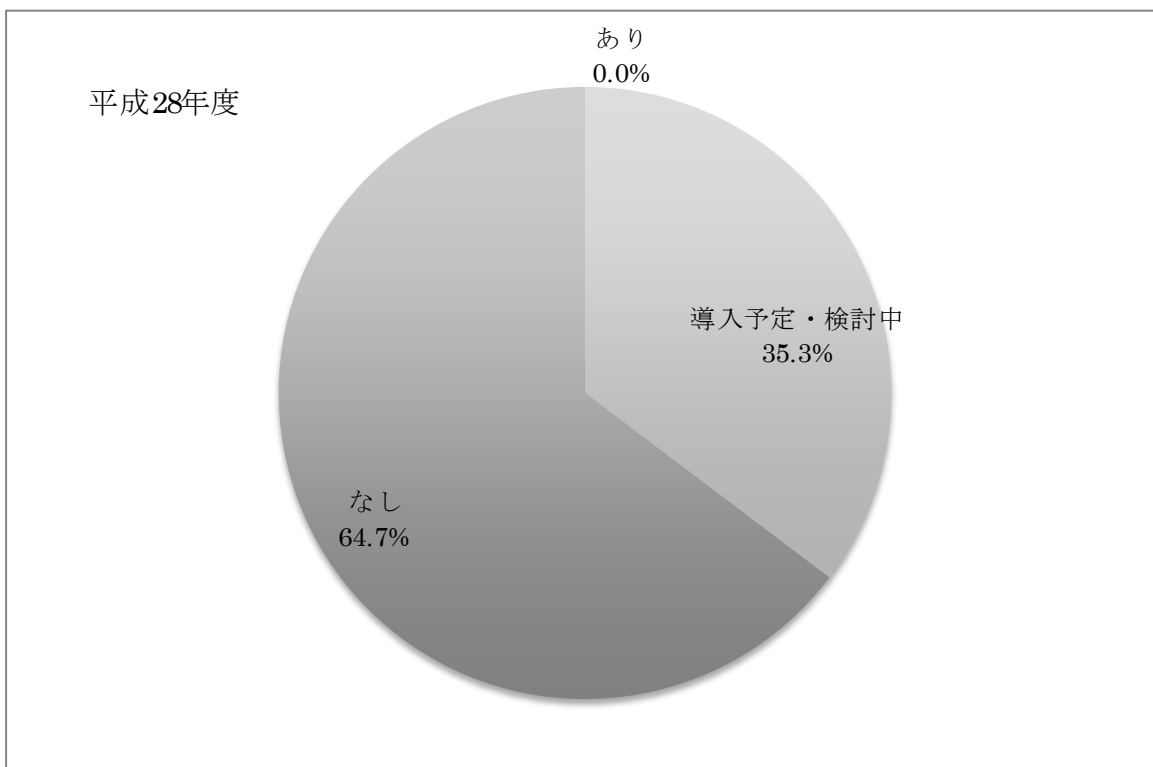
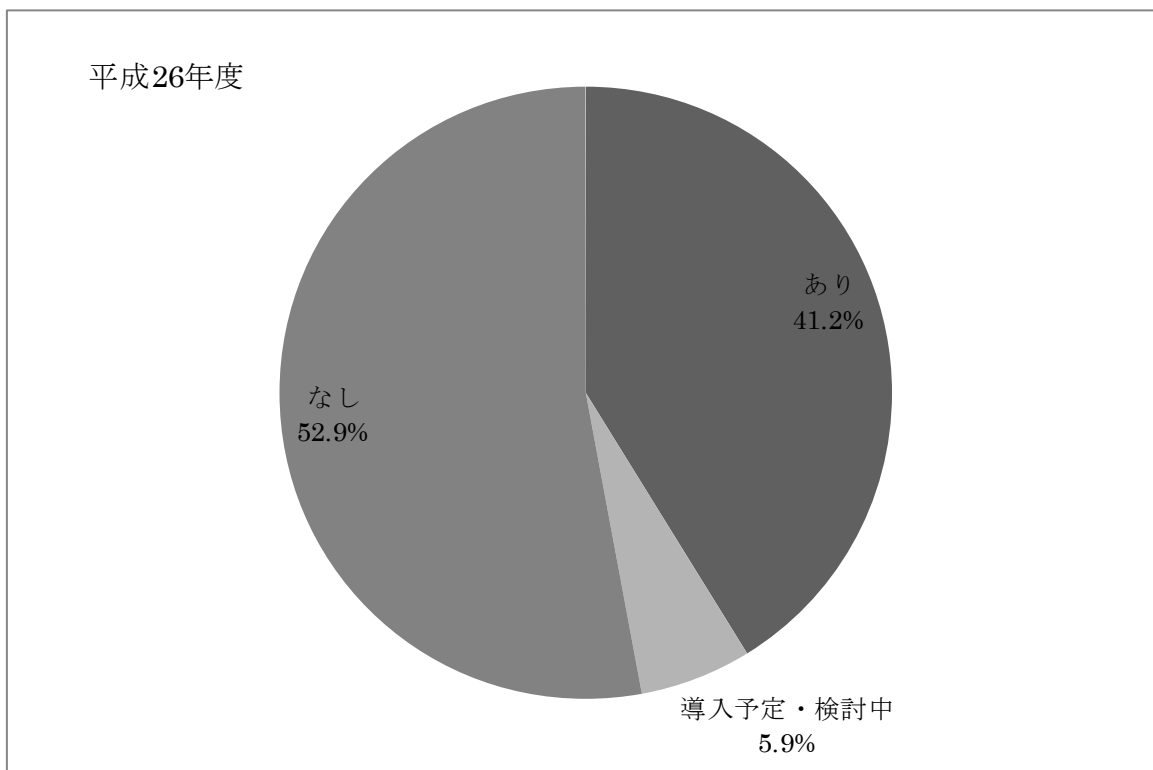
## 2. 日本耳鼻咽喉科学会と関連する学会における役員数と女性比率

学会名	平成 26 年度			平成 28 年度		
	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)
日本耳鼻咽喉科学会	288	10	3.5	293	11	3.8
日本聴覚医学会	47	6	12.8	49	6	12.2
日本めまい平衡医学会	77	5	6.5	68	6	8.8
日本耳科学会	84	6	7.1	84	6	7.1
日本鼻科学会	74	2	2.7	77	2	2.6
日本気管食道科学会	183	3	1.6	133	7	5.3
日本頭頸部癌学会*	142	0	0	126	0	0
日本音声言語医学会	51	2	3.9	57	3	5.3
日本顔面神経学会	62	0	0	78	2	2.6
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会	132	8	6.1	139	7	5
日本小児耳鼻咽喉科学会	63	15	23.8	91	17	18.7
耳鼻咽喉科臨床学会	65	1	1.5	84	1	1.2
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	79	2	2.5	81	2	2.5
日本口腔・咽頭科学会	95	3	3.2	94	1	1.1
日本喉頭科学会	105	4	3.8	100	3	3
日本頭頸部外科学会	109	2	1.8	104	1	1
日本嚥下医学会	120	3	2.5	137	4	2.9
合計	1776	72	4.1	1795	79	4.9

\* 平成 26 年度の医師総数、女性医師数には歯科医師を含むが、平成 28 年度の数値には歯科医師数を含まない。



### 3. 役員選出に関する、クォータ制（割当制）等の女性医師登用へのポジティブアクションの有無



#### 4. 学会総会・学術集会における女性登用の推移～指定演者

学会名	平成 26 年度*			平成 28 年度		
	演者 総数	演者 女性数	女性比 率(%)	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)
日本耳鼻咽喉科学学会	29	3	10.3	12	2	12.5
日本聴覚医学会	3	0	0	8	3	10
日本めまい平衡医学会	29	2	6.9	40	3	0
日本耳科学会	44	2	4.5	52	1	7.1
日本鼻科学会	36	5	13.9	43	5	0
日本気管食道科学会	114	7	6.1	29	2	0
日本頭頸部癌学会	58	3	5.2	35	3	0
日本音声言語医学会	23	10	43.5	10	1	18.2
日本顔面神経学会	15	4	26.7	23	3	0
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会	17	1	5.9	3	0	10
日本小児耳鼻咽喉科学学会	12	1	8.3	8	0	17.6
耳鼻咽喉科臨床学会	17	1	5.9	10	0	0
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	11	0	0	0	0	-
日本口腔・咽頭科学会	47	6	12.8	33	1	0
日本喉頭科学会	19	2	10.5	17	4	0
日本頭頸部外科学会	35	1	2.9	16	5	0
日本嚥下医学会	19	5	26.3	8	0	5.6
合計	528	53	10	347	33	9.5

\*平成 26 年度アンケートでは、医師に限定せず指定演者数を算出していた。

## 5. 学会総会・学術集会における女性登用の推移～座長

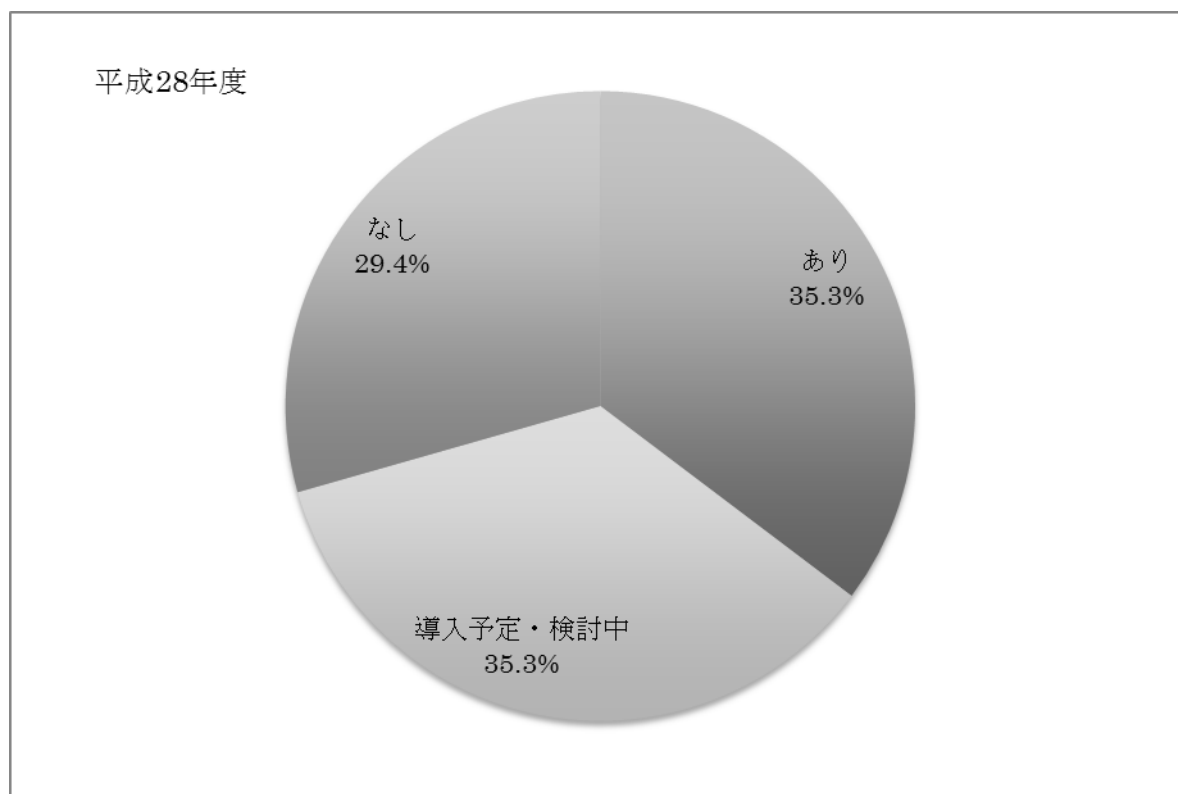
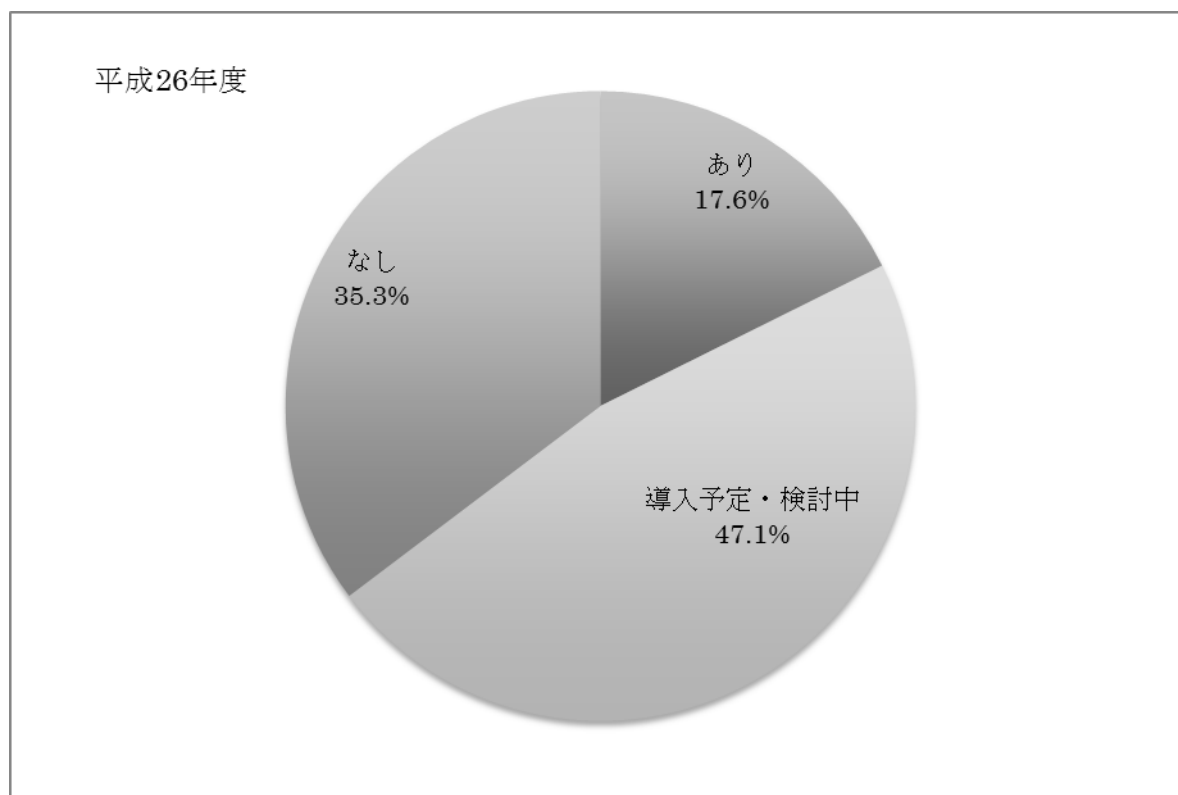
学会名	平成 26 年度			平成 28 年度		
	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)	医師 総数	女性 医師数	女性比 率(%)
日本耳鼻咽喉科学会	153	7	4.6	154	7	4.5
日本聴覚医学会	43	5	11.6	39	7	17.9
日本めまい平衡医学会	37	2	5.4	49	6	12.2
日本耳科学会	120	6	5	64	2	3.1
日本鼻科学会	51	3	5.9	107	5	4.7
日本気管食道科学会	70	4	5.7	51	3	5.9
日本頭頸部癌学会	70	1	1.4	53	0	0
日本音声言語医学会	82	22	26.8	13	0	0
日本顔面神経学会	26	0	0	37	1	2.7
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会	16	2	12.5	32	5	15.6
日本小児耳鼻咽喉科学会	35	7	20	49	9	18.4
耳鼻咽喉科臨床学会	97	1	1	118	2	1.7
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	45	1	2.2	32	1	3.1
日本口腔・咽頭科学会	40	2	5	67	2	3
日本喉頭科学会	69	1	1.4	47	1	2.1
日本頭頸部外科学会	112	4	3.6	112	2	1.8
日本嚥下医学会	26	3	11.5	39	3	7.7
合計	1092	71	6.5	1063	56	5.3

\* 平成 26 年度の医師総数、女性医師数には歯科医師を含むが、平成 28 年度の数値には歯科医師数を含まない。

## 6. 学会総会・学術集会における託児所設置の有無

学会名	平成 26 年度			平成 28 年度		
	あり	導入 検討中	なし	あり	導入 検討中	なし
日本耳鼻咽喉科学会	○			○		
日本聴覚医学会	○			○		
日本めまい平衡医学会	○			○		
日本耳科学会	○			○		
日本鼻科学会			○	○		
日本気管食道科学会			○	○		
日本頭頸部癌学会			○			○
日本音声言語医学会	○			○		
日本顔面神経学会			○			○
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会			○	○		
日本小児耳鼻咽喉科学会	○			○		
耳鼻咽喉科臨床学会	○			○		
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会			○	○		
日本口腔・咽頭科学会			○			○
日本喉頭科学会			○		○	
日本頭頸部外科学会			○			○
日本嚥下医学会		○			○	
合計	7	1	9	11	2	4

## 7. 学会内における女性医師支援や男女共同参画推進に関する内部組織やアクションプランの有無



## 8. 自由意見

- 女性会員が多く、特段の配慮は不要。(日本聴覚医学会)
- 学会として男女共同参画担当委員を選出し、学術集会における女性医師支援について総会や各講習会を開催する。担当者とも協議し、推進していくことを計画している。  
(日本めまい平衡医学会)
- 女性医師セミナー開催。(日本鼻科学会)
- 男女共同参画委員会を新たに設置した。女性評議員の増加を図る。学術集会において座長・シンポジスト・特別講演などに女性を積極的に登用するよう会長に依頼する。学術集会時の託児所設置については会員に意見を求めた上で検討する。(日本気管食道科学会)
- 今後学会内の男女共同参画委員会を中心に女性の役員増加や主題発表の増加に取り組みます。(日本音声言語医学会)
- 以前から女性の登用を心がけていたため、現在に至っても役員や座長等女性に活躍していただく土台ができている。(日本小児耳鼻咽喉科学会)
- 学術集会における男女共同参画パネル、女性医師支援などのパネルを検討中です。(耳鼻咽喉科臨床学会)
- 男女共同参画は子供をもつ女性医師の制度を充実させるだけでは成り立たないと思います。すべての人が適切な勤務環境で働くことで初めて男女が平等に参画する環境が得られるのではないのでしょうか。そこで各大学の耳鼻咽喉科学教室において、男女を問わない勤務環境改善の取り組みの現状について調査をお願いします。(日本嚥下医学会)

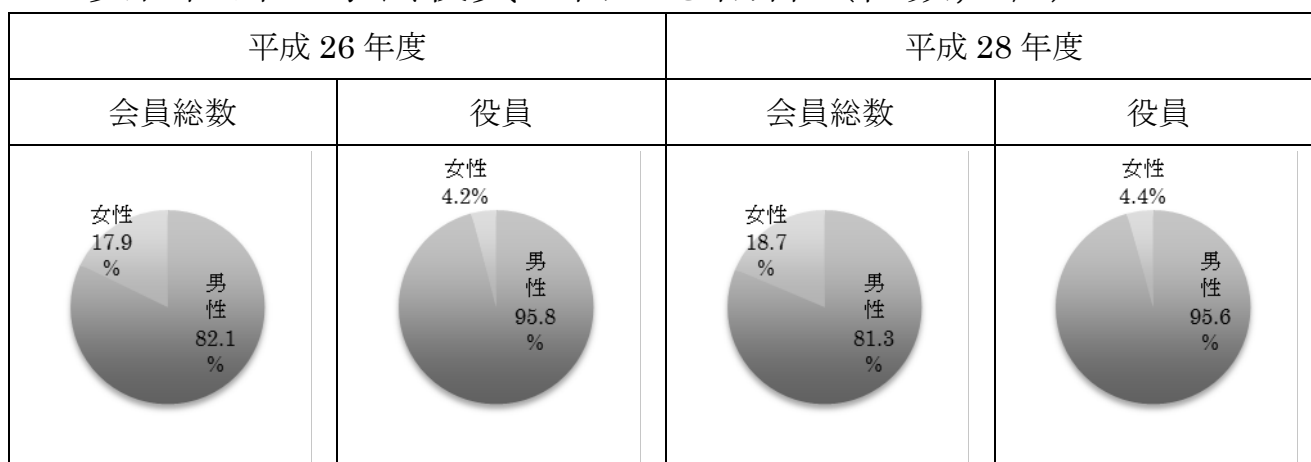
### III. 集計結果の概要

#### 1. 女性会員比率と女性登用率(%)

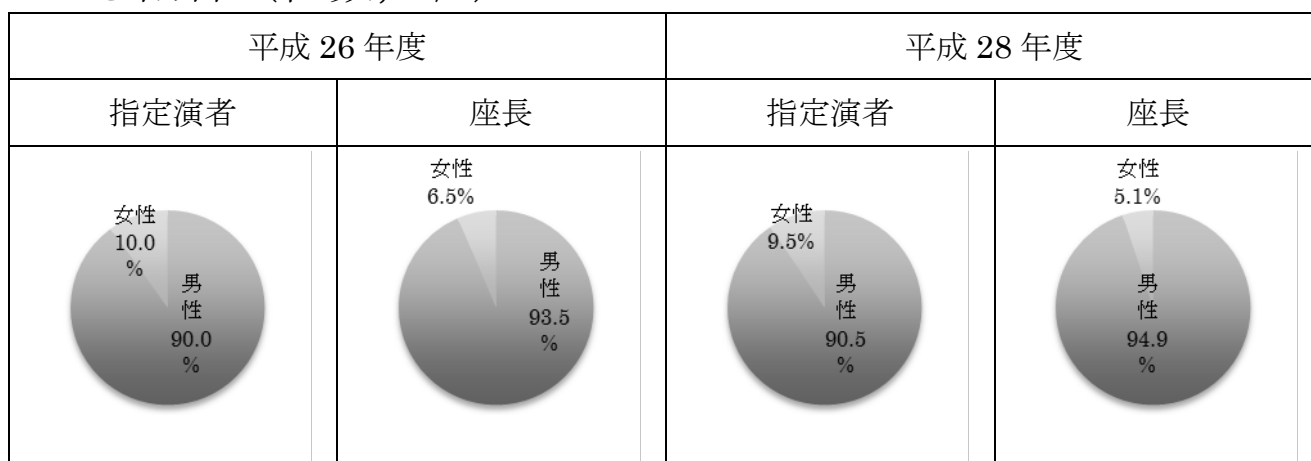
学会名	平成 26 年度				平成 28 年度			
	会員 全体	役員	指定 演者	座長	会員 全体	役員	指定 演者	座長
日本耳鼻咽喉科学会	22.2	3.6	10.3	4.6	22.8	4.2	16.7	4.5
日本聴覚医学会	21	10.5	0	11.6	22.3	11.9	37.5	17.9
日本めまい平衡医学会	6.1	5.6	6.9	5.4	20.3	7.5	7.5	12.2
日本耳科学会	19.9	7.2	4.5	5	20.5	7.1	1.9	3.1
日本鼻科学会	16.9	2.4	13.9	5.9	17.9	2.3	11.6	4.7
日本気管食道科学会	11.1	1.3	6.1	5.7	12.1	4	6.9	5.9
日本頭頸部癌学会*	11.6	0	5.2	1.4	10.5	0	8.6	0
日本音声言語医学会	20.3	4.8	43.5	26.8	18.6	7.4	10	0
日本顔面神経学会	11.8	0	26.7	0	11.3	2.3	13	2.7
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会	19.1	7.1	5.9	12.5	17.9	5.4	0	15.6
日本小児耳鼻咽喉科学会	26.9	22.5	8.3	20	26.3	18.5	0	18.4
耳鼻咽喉科臨床学会	22.6	1.1	5.9	1	19.1	1.1	0	1.7
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	12.8	2.2	-	2.2	14.9	2.2	-	3.1
日本口腔・咽頭科学会	16.9	2.8	12.8	5	17.6	0.9	3	3
日本喉頭科学会	10.8	3.2	10.5	1.4	10.6	2.5	23.5	2.1
日本頭頸部外科学会	12.6	1.5	2.9	3.6	12.9	0.8	31.3	1.8
日本嚥下医学会	15.5	2.9	26.3	11.5	14.7	3.2	0	7.7
平均	16.4	4.6	11.2	6.5	17.1	4.8	9.5	5.3

\* 平成 26 年度の医師総数、女性医師数には歯科医師を含むが、平成 28 年度の数値には歯科医師数を含まない。

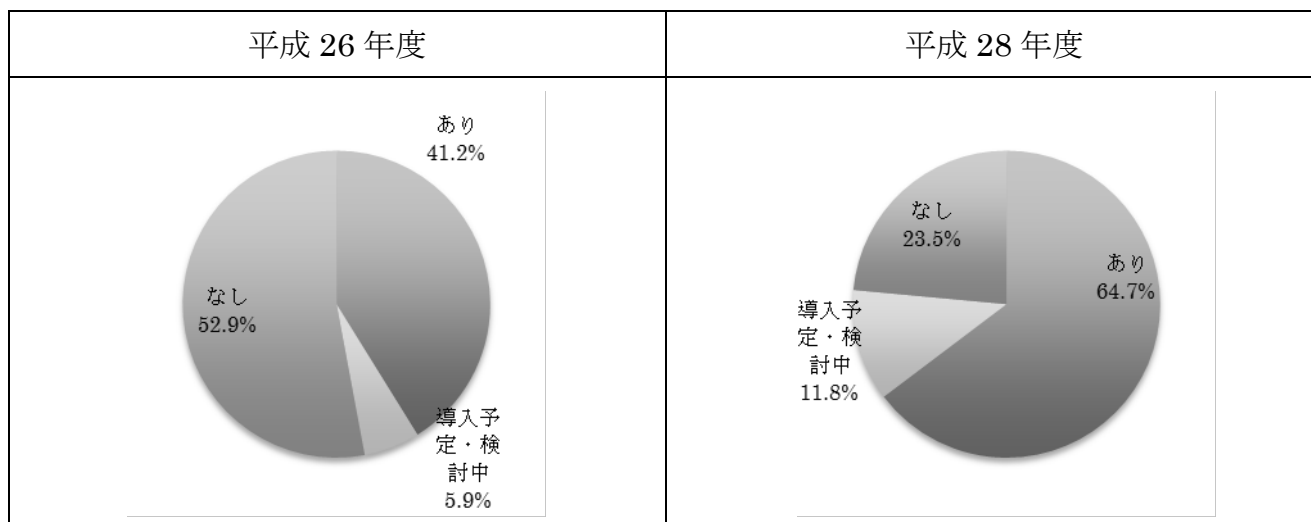
## 2. 女性医師の学会役員に占める割合（総数，％）



## 3. 総会・学術講演会における女性の指定演者・座長に占める割合（総数，％）



## 4. 学会総会・学術集会における託児所設置の有無





## IV. アンケート用紙

(日本耳鼻咽喉科学会関連する学会 理事長 殿)

平成 28 年 12 月 20 日  
一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会  
理事長 森山 寛  
男女共同参画委員会  
担当理事 高橋 姿  
委員長 小林一女

### 「男女共同参画」に関するアンケート調査へのご協力をお願い

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が平成 27 年 8 月 28 日に国会で成立しました。これにより、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主（国や地方公共団体、民間企業等）に義務付けられています。

さらに、平成 27 年 12 月に閣議決定された第 4 次男女共同参画基本計画では、「研究機関、大学、企業等における女性研究者・技術者の採用促進等、科学技術・学術分野における政策・方針決定過程への女性の参画拡大」「女性医師の仕事と生活の両立や、離職・休職した女性医師の復職を通じた、医療機関、学術団体、職能団体等の関係団体における政策・方針決定過程への女性の参画拡大」を具体的な取り組みとして掲げています。

日本耳鼻咽喉科学会男女共同参画委員会では、これらに先立ち、平成 26 年度に関連する学会に男女共同参画に関するアンケートを依頼し、各学会への役員選出に対するポジティブアクションの導入や学会総会・学術集会の指定演者・座長への女性登用比率などを調査いたしました。その結果、多くの学会では、女性会員比率に比較して女性医師の指導的

地位への参画は未だ十分ではないという状況が判明しています。日本耳鼻咽喉科学会の10年間の新入会員に占める女性医師の割合は30%前後で推移しており、男女共同参画は耳鼻咽喉科医療水準の維持のために、耳鼻咽喉科医全体として取り組むべき課題であると考えます。

そこで2年の月日を経て、日本耳鼻咽喉科学会の関連する学会に前回同様の「男女共同参画」に関するアンケートへのご協力をお願いし、各学会における「男女共同参画」の進捗状況を調査することになりました。本調査結果は、日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会で口頭発表し、男女共同参画委員会HPで公開するほか、本委員会でのアクションプラン作成の参考とさせていただきます。

ご多忙の折、誠に申し訳ございませんが、ご回答いただきましたアンケートは平成29年1月31日（火）までに同封の封筒にてご返送ください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具

連絡先：日本耳鼻咽喉科学会事務局  
男女共同参画委員会 事務担当 増村育美  
〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-22  
TEL: 03-3443-3085 FAX: 03-3443-3037  
Email: nichijibi-shomu@jibika.or.jp

## 「男女共同参画」に関するアンケート

問1. 貴学会のうち医師数と女性医師数についてお答えください。

学会員数 \_\_\_\_\_名

医師数 \_\_\_\_\_名（うち女性医師数 \_\_\_\_\_名）

問2. 貴学会の役員、評議員（代議員）数についてお答えください。

	人数	(うち女性の人数)	医師数	(うち女性医師数)
会長（理事長）	_____名	_____名	_____名	_____名
副会長（副理事長）	_____名	_____名	_____名	_____名
理事	_____名	_____名	_____名	_____名
評議員（代議員）	_____名	_____名	_____名	_____名

問3. 貴学会の役員、評議員（代議員）選出に関して、クォータ制（割当制）等、女性医師登用へのポジティブアクションはございますか。（いずれかに○印をおつけください。）

- 有り（内容：\_\_\_\_\_）  
例：女性理事枠○名 等
- 導入予定または検討中
- 無し（理由：\_\_\_\_\_）

問4. 本年度の貴学会総会・学術講演会におけるシンポジスト・パネリスト・座長の人数をお答えください。

	人数(医師数)	うち女性の人数（女性医師数）
シンポジスト	_____（_____）名	_____（_____）名
パネリスト	_____（_____）名	_____（_____）名
座長	_____（_____）名	_____（_____）名

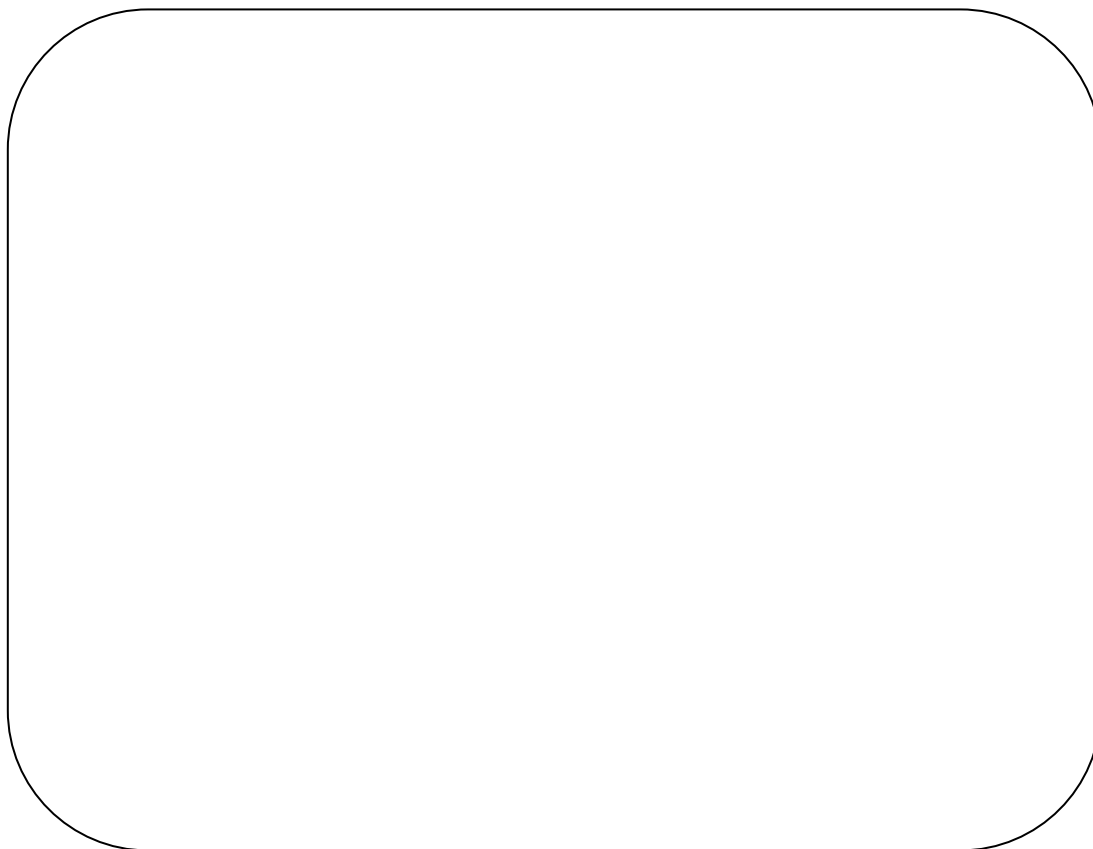
問5. 学会総会・学術講演会等に託児所を設置したことはありますか。(いずれかに○印をおつけください。)

- あり
- なし
- 設置予定または検討中

問6. 貴学会内に女性医師支援や男女共同参画推進に関する内部組織やアクションプランはございますか。(いずれかに○印をおつけください。)

- 有り

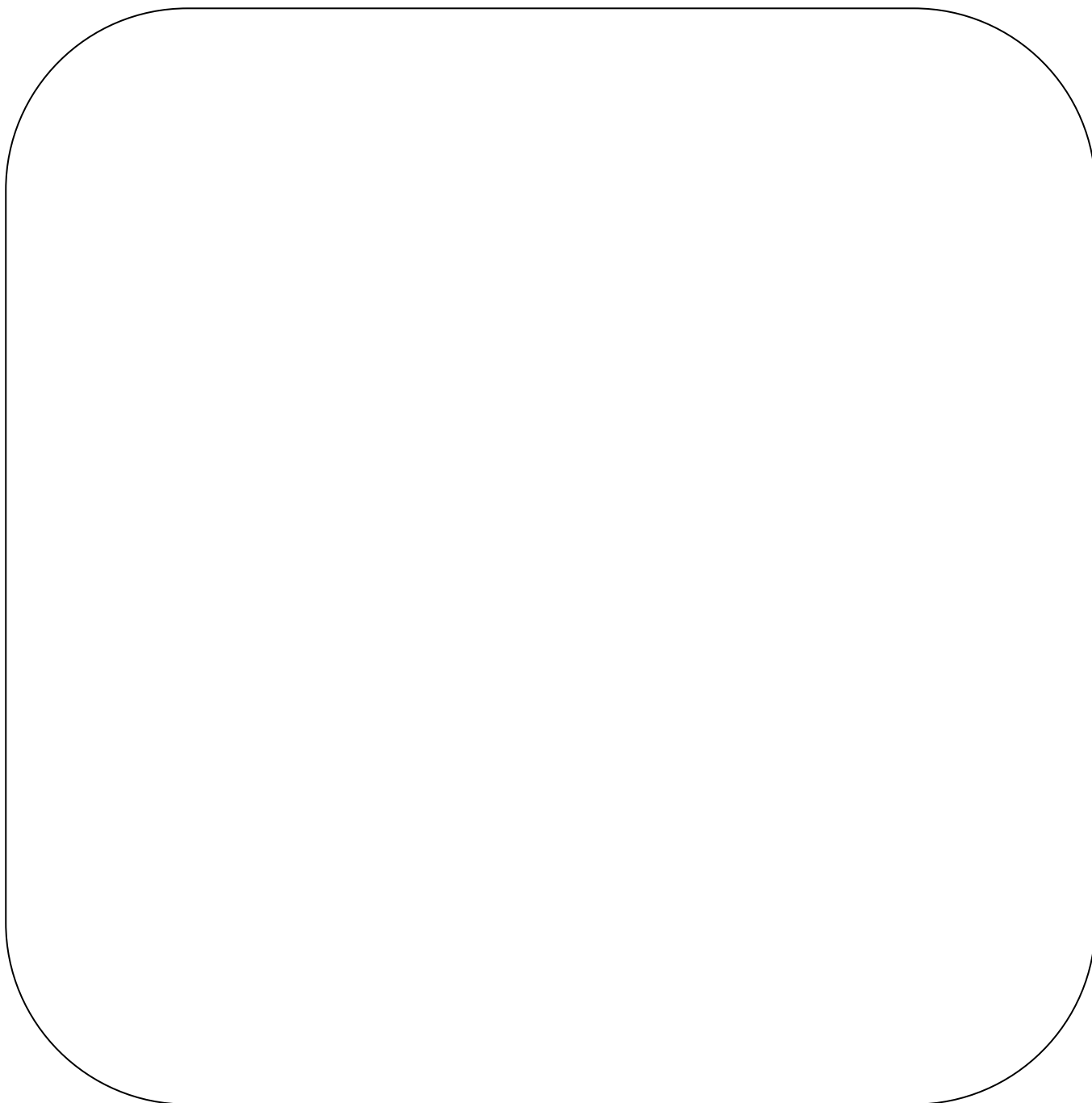
例：男女共同参画委員会の設置，学術集会における女性医師支援・男女同参画パネルの企画，など



- なし
- 検討中

ご協力ありがとうございました。以上でアンケートは終了です。

なお、本調査に関わらず、日本耳鼻咽喉科学会男女共同参画委員会へのご意見やご要望等  
がございましたら、ご記入をお願い申し上げます。



ご記入いただきました本アンケートは、同封の返信用封筒に入れ、平成29年1月31日  
(火)までにご返送をお願い申し上げます。